お点前の語源について

抹茶を飲むために、お湯と混ぜ供する手順と作法のことを、点前と茶道では呼んでいます。

和比・茶美というサイト(https://wabi-sabi.info/)によれば、以下の記述があります。

鎌倉時代に栄西が日本へ伝えた点茶は、その後、足利幕府に受け継がれ、千利休の時代には今の「点前」の基礎が確立します。

「茶をたてる」、「てまえ」という言葉は、早い時期から使われており、当初は「立てる」「手前」と書かれていました。「点てる」「点前」と「点」の字を使うようになったのは、江戸時代後期からのようで、中国語の「点茶」を「茶ヲ点ズ」と読み下したことに由来しています。

また、茶人としても有名な幕末の大老井伊直弼は「点前」と書いて「たてまえ」と読ませていたそうです。その後、しだいに、「点前」は、「てまえ」と読まれるようになり、一方で「たてる」には「点てる」という字が当てられました。

その点前の「点」は小学館/デジタル大辞泉によれば、しるしなどをつける。ちょっとした動作をして入れる、さすという意味で、ご存じの通り点前の他に「点火・点眼・点滴・点灯」などがあります。

「点前」は、小学館/日本大百科全書(ニッポニカ)によれば、茶の湯において茶を点(た)てたり、炭を置く行為をいう。古くは手前と書いていたが、現在は、炭を置く行為である「炭手前」にのみ手前の字を使い、ほかはすべて点前の字をあてている。中国宋(そう)代の茶書『茶録』に「点茶」とあって、点前の語の初見となっている。とあります。

お点前について、私は一点の曇りも無いその目の前の一瞬こそがお点前としています。本当に素敵なご質問を戴きありがとうございます。

松平　洋史子